

# 3R瓦版（10月号）



© 2016 フジコ イトウ All Rights Reserved.

## みんなで生態系の保たれた森を復元

10月8日は「木の日」。1977年に木材の利用促進を図るため、「木」の字（十に八）に因んで定められました。「木の日」がある今月、森について考えてみたいと思います。

### ◆森は「命のみなもと」

豊かな森は、澄んだ空気と滋養豊かな水、木材や食料等を供給し、大地を支えて災害を防ぎ、川や海に豊かな漁場を育てます。私たちは、森なくしては生きていくことができません。

森は、木や草などの植物のほか、動物、菌類などから構成されます。花粉を媒介する昆虫、種子を遠くに運ぶ鳥、糞や遺骸を分解して土に戻すキノコなど、あらゆる生物が大切な役目を果たしています。例えば木の実、そのまま地面に落ちるより、動物に食べられて糞として排泄される方が、種子の発芽率が高まります。

### ◆人工林の現状

日本の国土面積に占める森林面積の割合は67%で先進国の中では世界第三位を誇ります。しかし日本の森は良い状態であるとは言えません。一例として人工林についてご紹介します。

日本の森のうち、スギやヒノキなどの木材生産のために人工的に植えてつくられた人工林は41%を占めます。戦後の拡大造林政策により、1950年代以降、山の上や急傾斜地の天然林も単一樹種の人工林に置き換えられていきました。人工林は、間伐や枝打ちなどの手入れをし続けなければ健全な状態を維持できませんが、1960年代の木材輸入自由化等により安価な木材が輸入されるようになり、手入れされずに放置されるようになりました。中に光が入らないため地面に下草が生えず、保水力が低下し、大雨が降ると土砂災害を起こしやすくなっています。豊かな森の形成には様々な生物が必要ですが、下草も生えない森には生物はあまり棲むことができず、里地における獣害増加の一因にもなっています。

### ◆和東町で始めた森づくりの取組

私たちは、京都府和東町で開催されたワークショップ「わづかまちづくりびと交流サロン」にて地元の方々の協力を得て「和東町で豊かな森をつくろう」プロジェクトを立ち上げ、2014年3月から和東町撰原（えりはら）でヒノキ林の強度間伐を始めました。ヒノキを間引いて森に光が入るようになると、地面に埋まっていた種子が芽を出し、少しずつ様々な種類の植物、昆虫、鳥などが戻って来ます。数十年後には、残されたヒノキも立派に成長し、生態系の復元と林業の復活が実現することを願っています。

活動は毎月1回開催し、お子さんから年配の方まで様々な世代の方にご参加いただき、和気あいあいと作業を行っています。

私たちのグループ以外にも、各地で人工林のほか雑木林の手入れなどの活動が行われています。こうした活動にご参加いただき、森の問題を身近に感じていただければ幸いです。山主さんは毎回温かく迎えてくださり、和東町の自然の魅力、人の温かさに心を洗われます。

「和東町で豊かな森をつくろう」プロジェクト

<http://wazuka-forest.jimdo.com/>

「和東町で豊かな森をつくろう」プロジェクトチームリーダー  
小山直美

REPAIR  
FACTORY

(有)本杉工機

京都府久世郡久御山町田井新荒見220番地

tel : 0774-66-6254